



2022-2023 年度 国際ロータリー第 2730 地区 宮崎県中部グループ

## 宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 102 回 例会 2022 年 12 月 20 日

●例会場 宮崎大学地域デザイン棟

会長 薬王寺文宏 副会長 成合 修 幹事 安田文彦

### ■会長の時間 薬王寺文宏 会長



今回の例会が今年最後となります。

この今年最後の例会を私たちのホームである地域デザイン棟で開催できることが、非常にうれしく思います。今後はデザイン棟で例会を行いたいと思います。まだ会場のキャパの関係で席を全会員分ご用意できなかったなど課題があると思いますが、しっかり対策して運営していきたいと思います。

この宮崎県中部グループでは2ヶ月に1度、会長幹事が一堂に集まる『会長・幹事会』というものが行われています。ここで毎回自クラブの近況報告を行うわけですが、そこで今年度は現時点で5名の新入会員さんをお迎えする予定であるという話をすれば皆さんがどよめくだろう…と用意していました。

しかし、私たちの直前で報告された宮崎西 RC さんが現時点で10名の新入会員さんをお迎えされているということで、残念ながら私たちの報告での驚きは薄れてしまいました。しかし、例年で考えると、この半期で5名の新入会員獲得というのは非常にいい成績です。会員みなさまのおかげでこのような実績を収められたこと感謝いたします。また今後も、更なる会員拡大に努めていきたいと思います。

※前回の夜間例会での出席者が少なかったので、あえてその時と同じ話をさせていただきましたm(\_ \_)m

《閉会の点鐘のときのご挨拶》

次回例会は新年1月10日となります。

みなさん、元気に顔合わせしたいと思えます。

良いお年をお迎えください。

### ■幹事報告 安田文彦 幹事



みなさん、こんにちは。

本日の幹事報告は6点ございます。

- 1 鹿児島ロータリークラブ創立70周年記念式典祝賀会のご案内が来ておりますので、ご報告いたします。
- 2 青森県津軽地方豪雨災害支援金のお礼と報告が来ております。寄付金は48,330,000円となりました。ご協力ありがとうございました。
- 3 メルボルン国際大会参加についてのご案内が来ておりますので、ご報告いたします。
- 4 第8期RLI-2730パートIIセミナーのご案内が来ております。開催日時は、令和5年1月21日(土)9:20~15:30、場所は、都城市総合文化ホールです。
- 5 2022年11月22日の寄付についてご報告いたします。ロータリー財団が3,650円、米山奨学金が4,165円でした。引き続きよろしくお願いたします。
- 6 2022年12月のロータリーレートは、1ドル=138円です。日本事務局に着金した月のRIレートが適用されます。月末にお振込みされる方はご注意くださいますようお願いいたします。

## ■各会員からの報告



クラブ管理委員会より

出席担当 瀧伸一 委員

第102回例会出席について、次の通り報告いたします。

- ・開催日：2022年12月20日火曜日
- ・会員数：37名
  - ・ホーム出席：21名
- ・オンライン出席：2名
- ・出席者合計：23名（暫定出席率62.16%）



プログラム担当 辻清 委員長

次回、第103回例会について

2023.1.10（火）12:00～地域デザイン棟です。

会場をお間違えないようにご注意ください。

メイクアップ出席について

他クラブにてメイクアップをされた方は、宮崎アカデミーロータリークラブのいつの欠席充当にするかを事務局に連絡するようにしてください。連絡がない場合は、充当ができません。

## ■決算報告

辻清 会計

2021-2022年度 会計より

添付した決算書につきまして、必要な帳簿、通帳の監査を行いました。いずれも適正に処理されておりましたので、報告いたします。

## ■年次総会

安田文彦 幹事

本日、出席23名、委任状3通いただいておりますので、年次総会が成立したことをご報告いたします。

葉王寺文宏 会長

2023年～2024年度役員・理事を紹介いたします。

2023～2024 年度 宮崎アカデミーロータリークラブ役員・理事

役 員		理 事	
会 長	明石 良	クラブ管理 (クラブ奉仕)	安田文彦
副 会 長	水光正仁	クラブ増強	児玉由紀
幹 事	梶田竜司	公共イメージ	大地寛行
会 計	梶田竜司	ロータリー財団・ 米山記念奨学金	村上啓介
S・A・A		奉仕プロジェクト	勢井由美子
会長エレクト	伊達 紫		
直前会長	薬王寺文宏		

■ 卓話 勢井由美子 委員長



ボランティア活動は、約 30 年近くになります。  
 特にお金のかかるボランティアは東日本大震災以降です。  
 2003 年 9 月、陸前高田市から招聘されてのコンサートでお世話になっ  
 た健康管理課職員 26 名が  
 津波で全員死亡となったことで、陸前高田市への思いが強くなりました。  
 た。

その時その職員には生まれたばかりの赤ちゃんがおられました。  
 私は、その赤ちゃんが 20 歳になるまで寄り添うことを決意したので  
 した。  
 つまり私の東北支援は残り 8 年となります。

相手に寄り添うことの大変さ苦しさは身をもって知ることになったこ  
 の 12 年間でした。  
 こんなに苦しんでまでするボランティア活動なんてあり得ないことな  
 のかもしれません。

「被災してないあなたに何がわかるというのか！」  
 「どうしてきりんさんが泣くんですか！泣きたいのは私たちなのに・・・」  
 「おら、こんなひでえことする神さんならいらねえ、信じねえ・・・」などなど  
 誰にもぶつけることのできない怒りを私たちボランティアの者たちは散々言われたものでした。  
 それもよしって言い聞かせながらでしたから、それでも私は毎回帰りの新幹線の中では泣いていました。

あっという間の 12 年間でした。

今や、第二の故郷陸前高田市。  
お友達の何百人と増えました。  
ずっと寄り添っていきますと信頼関係ができるんだなって思います。  
誰でも続けていればいつかは信頼されるものだと知ります。

支援活動は徹底した自己完結型でなければなりません。  
それも相当苦しいことでした。  
当時の陸前高田市には、まともなホテルもなくコンビニもなく、毎回宮崎からソイジョイを20本くらい送って食べていました。

震災後1年くらいしたころ、ボランティアの最終日に仮設住宅の方々がおにぎりを作って私に、新幹線の中で食べてねって渡された時は号泣でした。

と書き入れないことばかりです。  
また機会がありましたら是非ともコンサートにお越しくださいませ。きりんこと勢井由美子